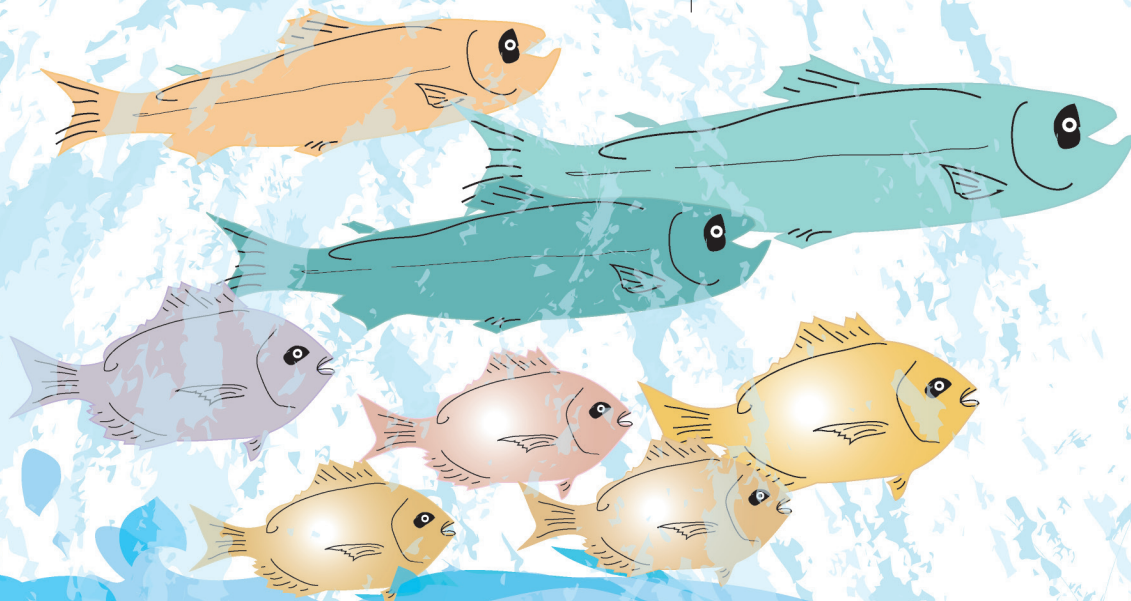


第63期

報告書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

1P	株主の皆様へ 次代を見すえ、更なる連携強化を行い グループ業績の回復を目指す
3P	「荷受事業」と「市場外事業」のコア事業を サポートするOUGグループ会社
5P	財務の概況
7P	会社情報 株式の状況
	Information 株主優待制度



OUGホールディングス株式会社



取締役社長

溝上 涼二

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社第63期（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）の事業および財務の概況のご報告を申し上げます。

平成21年6月

事業の経過および成果

当期におけるわが国経済は、米国のサブプライム問題に端を発した世界的な金融危機が深刻化し、海外経済の悪化による輸出急減が主因となり、国内需要の落ち込みも深刻になってまいりました。また、製造業を中心に設備や雇用の調整圧力が強まり、個人消費は生活防衛意識の高まりから低迷したまま推移いたしました。

水産物流通業界におきましても、個人消費が低迷し販売競争が激化するなか、上期は原材料価格の高騰による仕入コストの上昇、下期は円高による先安感から輸入水産物の国内相場が大幅に下落するなど業界を取り巻く環境は非常に厳しい状況でありました。

このような環境にあって、当社グループは、全体最適のグループ経営のもと、強固な連携により、顧客起点の発想を重視した積極的な営業活動を推進してまいりましたが、消費環境は誠に厳しく、輸入水産物の国内相場の大幅な下落による影響などもあり非常に厳しい事業展開を余儀なくされました。

業績につきましては、当連結会計年度の売上高は3,390億42百万円（前年同期比91.8%）と減収となりました。事業部門別では、卸売市場における水産物卸売部門は2,045億48百万円（前年同期比90.7%）、卸売市場以外での水産物卸売部門は1,294億39百万円（前年同期比93.7%）、その他50億54百万円（前年同期比90.2%）となりました。

売上総利益は消費の停滞による販売価格の低下に加え、輸入水産物の大幅な販売価格下落などにより227億60百万円（前年同期比91.6%）となりました。営業利益は販売費及び一般管理費全般について削減等効率化を進めてまいりましたが、売上総利益の大幅な減少

次代を見すえ、更なる連携強化を行い グループ業績の回復を目指す

により40百万円(前年同期比3.4%)となり、経常利益も金融収支の改善に努めてまいりましたが、4億85百万円(前年同期比29.7%)となりました。当期純利益は、投資有価証券評価損3億69百万円、関係会社貸倒引当金繰入額2億71百万円、減損損失83百万円などの特別損失および繰延税金資産の取崩しによる法人税等調整額7億93百万円の計上などにより、13億58百万円の純損失(前年同期7億80百万円の純損失)となりました。

なお、事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

〈水産物卸売事業〉

中央卸売市場を核とする集荷販売機能と全国各地を網羅する販売拠点を活かした幅広い流通網をもつ水産物卸売事業の売上高は個人消費の低迷などにより3,354億58百万円(前年同期比91.7%)、営業利益は売上高の減少、仕入コストの上昇および商品評価損の計上などにより9百万円(前年同期比0.7%)となりました。

〈水産物加工事業〉

辛子明太子、塩たらこ、シシャモ等の海外委託加工、消費地にある鮮魚加工センターにて輸入サーモンのフィレ加工およびハマチ、ブリ等の鮮魚加工を行う水産物加工事業の売上高は39億2百万円(前年同期比62.8%)、営業利益は販売競争の激化による販売価格の低下などにより2億69百万円の損失(前年同期2億10百万円の損失)となりました。

〈養殖事業〉

九州、四国にてハマチ、ブリを主力に養殖を展開する養殖事業では、売上高は販売価格の上昇などにより61億90百万円(前年同期比110.4%)となり、営業利益は素材価格・餌料の高騰などありましたが1億40百万円(前年同期比121.5%)となりました。

〈その他の事業〉

グループの水産物流通を補完する物流・配送事業等その他の事業の売上高は25億68百万円(前年同期比79.3%)、営業利益は12百万円の損失(前年同期75百万円の損失)となりました。

対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、米国経済回復の遅れ、国内外の需要の低迷、雇用情勢悪化による消費不振など景気回復に向けての懸念事項は多く、先行き不透明な状況にあります。

水産物流通業界におきましては、個人消費は低迷したまま販売競争は激化するなか、消費者の商品価値を意識した低価格志向の一層の強まり、少子高齢化による食品の消費量の減少、消費者ニーズの更なる多様化、食品に対する安全・安心への要求の高まりなど、厳しい経営環境下にあると予測されます。

このような経営環境に対応するために、当社グループは、コア事業である「荷受事業」および「市場外事業」ならびにコア事業を支える「水産物加工事業」、「養殖事業」、「物流事業」、「保険・リース事業」の更なる連携強化を行い、相乗効果の発揮などにより競争優位を構築してまいります。

また、当社グループは、販売力・調達力の強化、業務の効率化、顧客起点志向の追求、地域に対応したソリューションの提供を推進し、グループ役職員一丸となってグループ業績の回復に向け鋭意努めてまいります。

当社は、平成20年8月に当社グループのコーポレートガバナンス体制の更なる充実に向け、社外の有識者(社外委員)の方々から多方面かつ客観的な評価、提言を得るための会議体として外部評価委員会を設置し、経営の透明性を一層高めるとともに、当社業務の社会性、公共性、公正性の維持・強化に努めてまいります。

当社グループは、生産者から消費者までの水産物流通のトータルシステムである新しい水産物流通サービス業を創造し、消費者に安全・安心と満足を提供することにより、社会に貢献することを通じて企業価値を最大化してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「荷受事業」と「市場外事業」のコア事業をサポートする OUGグループ会社

養殖、物流、加工、保険・リース事業等を営むOUGグループ会社の各機能を活用することにより、シナジー効果を発揮し、グループ全体の競争力を強化します。

養殖事業 株式会社兵殖

九州、四国を拠点に、6カ所の漁場で養殖事業を展開しています。通常のイケスの約50倍の巨大イケス「ひろびろいけす」で育てたブリは、お客様から高い評価を受けています。また、養殖場に隣接する加工場では、その日の出荷分だけを沖合で水揚げ、すぐに加工場に運ぶことで鮮度を保っています。

日本国内で初めて、養殖場から加工場までの全ての生産ラインにおいて、HACCP(衛生管理システム)を取得し、日本国内のマーケットのみならず、世界各国のマーケットからの需要にも対応しています。

近年においては、マグロの養殖にも取り組み、今後の事業展開が期待されています。



物流事業 舞洲流通センター株式会社

水産物やチルド品を中心とした食料品の配送を行う、OUGグループの物流事業会社です。

常に低温で温度管理されたセンター内において、日本各地から集荷された水産物やチルド品、OUGグループ内で加工された製品などの仕分けを行い、コールドチェーンを途切れさせることなく、365日24時間体制で稼働しています。

今後は、関西圏のみならず、西日本エリアでのネットワークを充実させ、OUGグループの流通ネットワークのさらなる充実を図って行きます。



加工事業 関空トレーディング株式会社

関西国際空港対岸のりんくうタウンに位置するOUG加工センターを運営し、主力商材であるノルウェー産のアトランティックサーモンをはじめとして、国内外の鮮魚、冷凍魚など様々な魚種の加工を行っています。同社は食の安全を最重要課題とし、消費者ニーズや流通ニーズに対応するため徹底した衛生管理のもと、オートメーション化された生産ラインで高鮮度で高品質な製品を作り、お客様のもとへお届けしています。



加工事業 ダイワサミット株式会社

OUGグループの物流拠点である舞洲食品流通センター（大阪市此花区）に工場を構え、おにぎりや寿司などの米飯加工・炊飯業を展開しています。HACCP（衛生管理システム）を取得している全自動炊飯システムにより、1日平均10トンの炊飯が可能となり、365日・24時間稼働させ、安定供給しています。炊飯レシピの緻密さと炊飯後の急速冷凍技術、加工技術は、業界において高い評価を受けています。同社では、精米から炊飯、加工、配送に至るまでスピーディーに品質を落とすことなく流通させ、常に新しい味・新しい付加価値を生み出すことにチャレンジしています。



保険・リース事業 株式会社 トップ

OUGグループ内で使用される車輛や機械設備をはじめ、パソコンなどのハードウェアについてもリースを行い、グループ内での費用対効果の向上に大きな役割を担っています。さらに、グループ内の従業員の自動車保険・傷害保険・がん保険などの各種保険も取扱い、保険代理店の立場から専門的なアドバイザーとして、グループで働く従業員の暮らしをサポートしています。



財務の概況

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	期 別	(単位:百万円)	
		当 期 〔平成21年3月31日現在〕	前 期 〔平成20年3月31日現在〕
資産の部			
流 動 資 産		48,684	53,158
現金及び預金		2,221	2,684
受取手形及び売掛金		27,869	31,054
リース債権及びリース投資資産		117	—
商品及び製品		16,961	17,378
仕掛品		6	4
原材料及び貯蔵品		80	601
繰延税金資産		407	785
その他		1,978	1,798
貸倒引当金		△ 959	△ 1,148
固 定 資 産		19,726	22,074
有 形 固 定 資 産		12,174	12,548
建物及び構築物		3,767	4,031
機械装置及び運搬具		1,079	1,193
工具、器具及び備品		175	161
土地		7,069	7,161
リース資産		82	—
無 形 固 定 資 産		561	200
投 資 そ の 他 の 資 産		6,990	9,325
投資有価証券		5,470	7,017
関係会社株式		202	316
長期貸付金		853	1,073
破産更生債権等		1,889	2,689
繰延税金資産		390	476
その他		853	998
貸倒引当金		△ 2,668	△ 3,245
資 産 合 計		68,410	75,232

(単位:百万円)

科 目	期 別	(単位:百万円)	
		当 期 〔平成21年3月31日現在〕	前 期 〔平成20年3月31日現在〕
負債の部			
流 動 負 債		44,435	46,057
支払手形及び買掛金		18,240	20,188
短期借入金		22,841	21,887
リース債務		16	—
未払法人税等		155	377
未払消費税等		29	140
賞与引当金		719	748
その他		2,430	2,714
固 定 負 債		10,431	12,969
長期借入金		5,241	7,587
リース債務		458	—
繰延税金負債		345	565
再評価に係る繰延税金負債		433	433
退職給付引当金		2,089	2,007
役員退職慰労引当金		30	49
負ののれん		1,193	1,606
長期未払金		203	260
その他		435	460
負 債 合 計		54,866	59,026
純資産の部			
株 主 資 本		13,574	15,533
資本金		6,495	6,495
資本剰余金		6,153	6,153
利益剰余金		1,142	3,052
自己株式		△ 217	△ 168
評 価 ・ 換 算 差 額 等		△ 33	670
その他有価証券評価差額金		342	996
繰延ヘッジ損益		1	51
土地再評価差額金		△ 377	△ 377
少 数 株 主 持 分		2	1
純 資 産 合 計		13,543	16,205
負 債 ・ 純 資 産 合 計		68,410	75,232

注記事項 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

財務の概況

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	期 別	前 期	
		〔自平成20年4月1日 至平成21年3月31日〕	〔自平成19年4月1日 至平成20年3月31日〕
売 上 高		339,042	369,332
売 上 原 価		316,282	344,476
売 上 総 利 益		22,760	24,856
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		22,719	23,657
営 業 利 益		40	1,198
営 業 外 収 益			
受取利息		24	33
受取配当金		149	140
負ののれん償却額		410	363
その他		311	327
営 業 外 費 用			
支払利息		346	351
持分法による投資損失		3	—
その他		100	79
経 常 利 益		485	1,633
特 別 利 益			
リース資産処分損引当金戻入額		55	—
投資有価証券売却益		—	100
移転補償金		—	57
特 別 損 失			
投資有価証券評価損		369	—
関係会社貸倒引当金繰入額		271	—
減損損失		83	148
貸倒引当金繰入額		—	662
合併関連費用		—	355
棚卸資産整理損		—	161
その他		231	228
税金等調整前当期純利益		△ 414	234
法人税、住民税及び事業税		146	517
法 人 税 等 調 整 額		793	449
少 数 株 主 利 益		3	47
当 期 純 利 益		△ 1,358	△ 780

注記事項 1. 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。
2. 税金等調整前当期純利益および当期純利益の△印は損失を表示しております。

連結株主資本等変動計算書

当期 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

(単位:百万円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
平成20年3月31日残高	6,495	6,153	3,052	△ 168	15,533
連結会計年度中の変動額					
剰 余 金 の 配 当			△ 550		△ 550
当 期 純 損 失			△ 1,358		△ 1,358
株 式 交 換		△ 0		0	0
自 己 株 式 の 取 得				△ 50	△ 50
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 0	△ 1,909	△ 49	△ 1,958
平成21年3月31日残高	6,495	6,153	1,142	△ 217	13,574

	評 価 ・ 換 算 差 額 等				少 数 株 主 持 分	純 資 産 合 計
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	土 地 再 評 価 差 額 金	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計		
平成20年3月31日残高	996	51	△ 377	670	1	16,205
連結会計年度中の変動額						
剰 余 金 の 配 当						△ 550
当 期 純 損 失						△ 1,358
株 式 交 換						0
自 己 株 式 の 取 得						△ 50
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	△ 654	△ 49		△ 703	0	△ 703
連結会計年度中の変動額合計	△ 654	△ 49	—	△ 703	0	△ 2,662
平成21年3月31日残高	342	1	△ 377	△ 33	2	13,543

注記事項 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	期 別	前 期	
		〔自平成20年4月1日 至平成21年3月31日〕	〔自平成19年4月1日 至平成20年3月31日〕
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー		1,961	5,564
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 402	△ 4,116
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 2,009	△ 1,923
M. 現金及び現金同等物に係る換算差額		—	—
V. 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		△ 449	△ 475
VI. 現金及び現金同等物の期首残高		2,656	3,132
VII. 現金及び現金同等物の期末残高		2,206	2,656

注記事項 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

OUGホールディングス株式会社

会社概要

主要な事業内容 定款に定められた事業を営むこと、ならびに定款で定められた事業を営む会社およびこれに相当する事業を営む外国会社の株式もしくは持分を保有することにより、当該会社の事業活動を支配、管理することおよびこれに関連する業務を行うことを目的としております。

設立 昭和21年6月12日(創業 昭和22年10月)
資本金 6,495百万円
発行済株式総数 55,622,921株
従業員数 23名

役員の体制

取締役	代表取締役社長	溝上源二
	代表取締役	竹西俊之助
	取締役	谷川正俊
	取締役	下川真二
	取締役	久井恵之助 (社外取締役)
監査役	常勤監査役	谷和道雄
	常勤監査役	村中義美 (社外監査役)
	監査役	岡本宏孝 (社外監査役)
	監査役	富田英孝 (社外監査役)
執行役員	常務執行役員	三輪光幸
	常務執行役員	村松保範
	常務執行役員	原田史郎
	常務執行役員	草場裕樹
	常務執行役員	中江一夫
	執行役員	玉田耕也

株式の状況

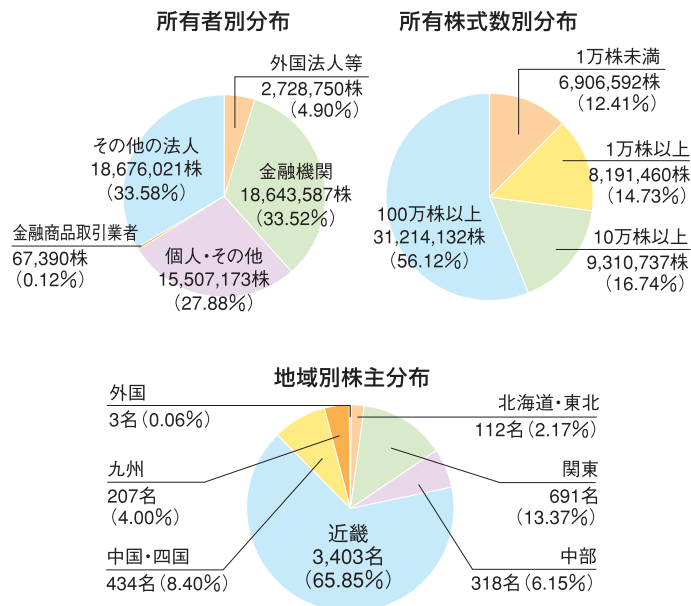
発行可能株式総数	209,159,000株
発行済株式の総数	55,622,921株
株主数	5,168名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
株式会社 マルハニチロホールディングス	5,825	10.53
日本生命保険相互会社	3,680	6.65
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	2,706	4.89
農林中央金庫	2,636	4.77
株式会社みずほ銀行	2,581	4.67
丸紅株式会社	2,000	3.62
株式会社りそな銀行	1,842	3.33
株式会社 三菱東京UFJ銀行	1,742	3.15
株式会社 マルハニチロ水産	1,626	2.94
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (中央三井アセット信託銀行再信託分・CMTB エクイティインベストメンツ株式会社信託口)	1,600	2.89

(注) 1. 出資比率は、自己株式(318,309株)を控除して計算しております。
 2. 会社法施行規則第122条第1項に定める大株主は、株式会社マルハニチロホールディングス1社であります。

株式分布



当社は、株主の皆様の日頃のご支援にお応えするとともに、当社株式への投資魅力を高め、中長期的に保有していただける株主様の増加を図ることを目的として、株主優待制度を実施しております。

株主優待制度

(1) 対象株主様

毎年9月末日現在の株主名簿に記載または記録された、1単元(1,000株)以上の株式を保有していただいている株主様を対象といたします。

(2) 優待の内容

- 1,000株以上5,000株未満ご所有の株主様へ3,500円相当の水産加工品を贈呈
 - 5,000株以上ご所有の株主様へ7,000円相当の水産加工品を贈呈
- 数種類の品目より選択していただきます。

(3) 贈呈時期

毎年、12月上旬を予定しております。

昨年、ご好評いただいた優待商品のうち代表的なもの。



唐津の干物セット
(3,500円相当)



塩紅鮭切身
(7,000円相当)

単元未満株式の買取請求について

(1) 買取請求について

単元株(当社の場合 1単元:1,000株)に満たない株式を、発行会社に対して市場価格にてその株式を買取るよう請求することができます。

(2) 買取請求の手続きについて

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、ご所有の単元未満株式が特別口座に記録されている場合は、特別口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。(株主メモをご参照ください。)

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更等の各種手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行(口座管理機関)の以下のお電話およびインターネットでも24時間承っております。
 - ・ 本店証券代行部 TEL 0120-244-479 (通話料無料)
 - ・ 大阪証券代行部 TEL 0120-684-479 (通話料無料)<http://www.tr.mufig.jp/daikou/>

上場金融商品取引所	大阪証券取引所市場第一部 (証券コード 8041)
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載の当社ホームページアドレス http://www.oug.co.jp

免責条項

本報告書に掲載している将来に関する予想については、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、さまざまな要因の変化により、異なる場合があることをご承知おきください。

OUGホールディングス株式会社

〒553-0005 大阪市福島区野田1丁目1番86号
大阪市中央卸売市場内
TEL:06-4804-3031 FAX:06-4804-3145
URL <http://www.oug.co.jp>

当社のHPを ご利用ください

当社HPでは、当社の最新ニュースを株主・投資家の皆様向け、発信しております。IRニュースや決算発表を行うページ、グループ各社の紹介等、様々な情報を掲載しておりますので、是非ご利用ください。

COMPANY PROFILE

GROUP VISION



TOP PAGE

URL <http://www.oug.co.jp>